

目標4 健康長寿と支えあいのまち いきいきと暮らせる健康づくり

10年後の姿（現基本構想）

○健康長寿を支える取組みが進んでいる
・誰もが気軽に参加できる様々な健康づくりの機会と場の整備が進んでいる。

令和3年度（2021年度）の目標

○区民や事業者などが協働・連携し、誰もが参加できる健康づくりの機会が整備され、一人ひとりが健康管理・健康増進に取り組み、健康寿命が延伸されています。

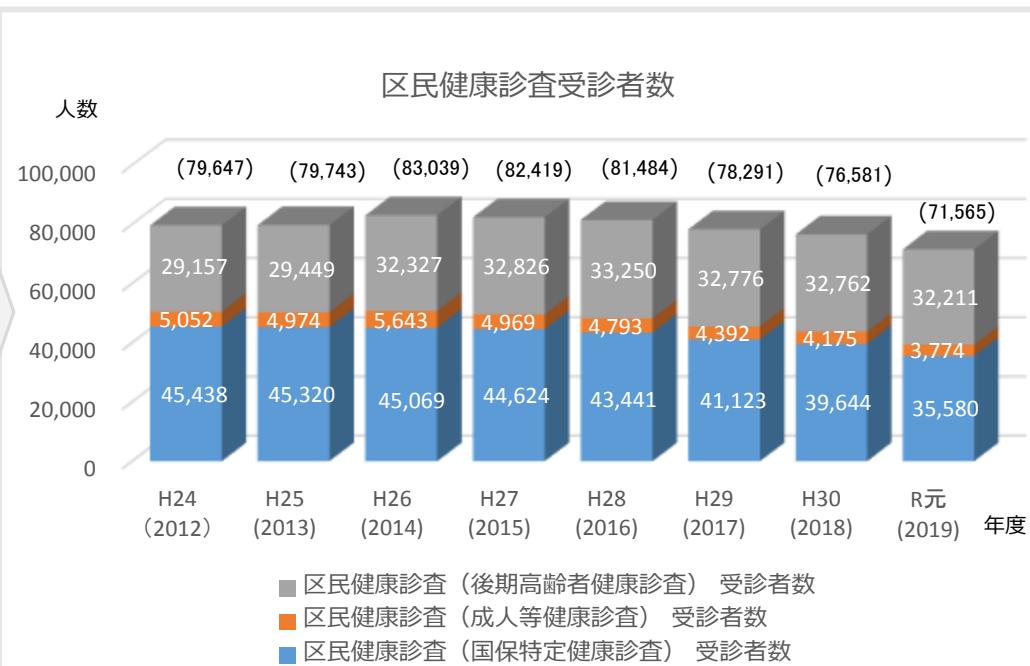
○がん、糖尿病などの生活習慣病対策が効果的に実施され、発症予防・重症化予防が進み、糖尿病有病者・予備群及びがんによる死亡率が減少しています。

○生活習慣病予防から介護予防、認知症予防の取組により、介護認定を受ける年齢が上がっています。

これまでの主な事業（取組）

- 1 区民健康づくりの推進（健康づくりの総合的な推進、受動喫煙防止対策等の推進など）
- 2 食育活動の推進（ライフステージに応じた食育の推進、食育推進ネットワークの強化など）
- 3 生活習慣病予防対策の推進（区民健康診査の実施、成人歯科健康診査の実施など）
- 4 がん対策の推進（がん検診の推進、がん患者と家族への支援の充実など）
- 5 「心の健康づくり」の推進（心の健康相談の充実、自殺予防対策の推進など）
- 6 高齢期における健康づくり(フレイル予防の推進、介護予防普及啓発・地域介護予防活動支援事業など)
- 7 難病・アレルギー対策の推進（難病対策の推進、アレルギー・ぜん息患者への支援）
- 8 健康づくりを支援する環境（主体的な健康づくり活動を行う人材の育成など）
- 9 動物と共生できる地域社会づくり（動物の適正飼養ルールの普及啓発など）
- 10 スポーツを推進する環境づくり(スポーツアカデミーの運営、スポーツはじめキャンペーンの実施など)

個別事業の取組状況（グラフ）



数値目標

数値目標等	H24年度実績(調査年)	R元年度実績(調査年)	R3年度目標値
65歳健康寿命 男性	82.5歳 (H23年)	83.5歳 (H30年)	84歳
65歳健康寿命 女性	85.5歳 (H23年)	86.6歳 (H30年)	87歳
がんの75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対) 男性	102.1 (H23年)	82.3 (H30年)	92.1
がんの75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対) 女性	65.0 (H23年)	56.0 (H30年)	51.4

数値目標の達成状況及び評価

○65歳健康寿命は、平成24年度（2012年度）以降、男女とも着実に延伸しています。区では、区民、事業者、関係団体と区が協働して、生涯にわたり健やかでいきいきと暮らせる健康長寿の地域社会の実現を目指し、健康づくりに努めた結果であると受けとめています。

○がんの75歳未満年齢調整死亡率について、がんの早期発見・早期治療のため、がん検診等を推進した結果、平成24年度（2012年度）から男女とも着実に減少しています（7年間で男性は▲19.8ポイント、女性は▲9ポイント）。なお、男性は令和3年度の目標値をすでに達成しています。

今後の主な課題

- 平成26（2014）年制定の杉並区健康づくり推進条例に基づき、各種健康づくり推進事業を推進していますが、今後の新たな目標及び指標を設定するとともに、「人生100年時代」を見据え、データヘルス計画に基づいた根拠のある健康づくりを展開する必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症対策下での「新しい生活様式」に対応した健康づくり事業の取組が必要です。
- 生涯にわたる健康づくりのため、ライフステージに応じた食育の取組を継続することが必要です。
- 区民健診・がん検診の受診率が減少傾向にあるため、がん検診の質の向上を図りつつ、受診勧奨などを工夫して受診率を上げる取組が必要です。
- 女性の健康づくりについて、平成29(2017)年度から更年期世代を対象にした事業を実施していますが、受講者のリピーターが多く、新規受講者が減少しており、取組の効果を踏まえ見直しが必要です。
- 近年、区内の自殺者数が横ばいで推移していることから、心の健康づくりをはじめ関係機関が連携した「精神的な視点だけでなく、社会的な視点を加えた包括的な支援」を継続して実施することが必要です。
- 生涯にわたる口腔機能の維持は、健康寿命の延伸にもつながることから、区民自ら行う口腔ケアやかかりつけ歯科医での定期健診等の歯科疾患予防対策の更なる推進が必要です。
- 高齢期における健康づくりについて、事業全般に介護予防、認知症予防とともにフレイル予防の視点を盛り込む必要があります。
- 閉じこもり等不活発な高齢者を少なくするため、感染症の予防対策をとりながら、自らの意思で参加し、自主的に続けられる魅力的で効果的な事業展開が必要です。
- 動物にも優しいまちや動物を通じての住民同士の繋がりを深めるため、飼い主のいない猫対策、災害時動物救護対策の体制強化に向け、杉並どうぶつ相談員及び東京都獣医師会杉並支部等との協働の推進が必要です。

